

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターひかり園		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日		～ 2025年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45人	(回答者数) 44人
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 12人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)を作成している。	・療育経験の長い職員が増えつつある中で、会議では発達を踏まえた討議ができるよう意識している。 ・会議に児発管が同席し、子どもへの理解を共有している ・職員の経験年数や資格を考慮して、必要な研修を受ける機会を設けている。	・子ども理解と適切な支援を行うための研修会に参加する ・発達や障がいへの理解を深めるような職員全体での研修の機会を設ける。
2	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信している。	・ブログは毎週一回更新している。4クラスがもちまわりで、日々の療育のねらいや様子を写真とともに掲載している ・事務連絡や緊急時の連絡はメールを活用している。親の会や保護者会からの案内も園から配信しているので、園としても事前に状況が把握できる	・ホームページ上で、保護者の交流や学びの場についての情報発信を行う ・メールを使った防災訓練に取り組む
3	こどもや家族からの相談や申入れについて、おたより、電話、面談など、即時に対応している。	・担任に限らず、管理者、児発管、相談支援専門員などに、気軽に相談してもらえるよう声をかけている。こちらからも積極的に声をかけ、関係づくりに努めている ・内容やニーズに応じて、即時に電話かおたよりで対応するか、面談日を設定するようにしている。	・相談援助技術を向上させるための研修会への参加 ・保護者の悩みを担任だけが抱え込まないよう、園内で専門職員によるスーパービジョンを実施できる体制を整える

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会がない	・以前は、隣接の小学校からの招待行事があったが、地域環境が変わったため、機会がなくなった。 ・近隣に公立保育所があるが、何らかの行事や活動を計画する時間の保障が難しい。	・防災訓練など、実際に地域の中での協働が必要な機会を想定した交流を図る。 ・園庭開放などして、近隣の保育所等との交流の機会をもつ(地域の子育て支援を含む)
2	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等について作成しているが、十分な周知と発生を想定した訓練が実施できていない。	・各種マニュアルについて、職員全体で共有する機会を持っていない。 ・非常勤の職員との共有が難しい。	・職員研修の位置づけで、すべてのマニュアルについて把握できる機会をもつ。 ・定期的な訓練とマニュアルの見直しを行う
3			